学校番号	309

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書Ⅱ」　（光村図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

漢字の古典や仮名の古典の臨書を通し、創造された作品の価値と根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の美の価値と美しさを深く味わい考えていきます。

2　学習の到達目標

「書道Ⅰ」で学習した書道の三分野それぞれの、線質、字形、構成などの要素と表現や風趣との関わり、日本及び中国などの書の文化や伝統、書の美と時代、風土、筆者などとの関わりについて更に理解を深め、芸術書道への関心・意欲を高めるとともに書に対する感性を豊かにし、書に対する心情を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	中国および日本における各書体の線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わりを古典の臨書を中心として表現できる。 中国および日本の書道史と人物の美意識、時代背景との関わりを理解できている。	漢字や仮名の古典の価値と根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。	芸術書道の学習に関心を持ち、主体的に古典的かつ創造的な学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	篆書・隷書	泰山刻石、石鼓文、甲骨文、乙瑛碑、居延漢簡の臨書を中心として、書体の変遷と歴史的背景を理解し、古典の美を味わう。	a:漢字の発生から隷書に至るまでの書体の変遷と歴史的背景を理解し、それぞれの線質と構成の技能を身につけている。 b:篆書と隷書の古典の価値と根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉えている。 c:主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品提出 授業観察	作品提出 ワークシート 授業観察	ワークシート 授業観察
	草書	十七帖、書譜、自序帖の臨書を中心として、書体の変遷と王羲之の書道史的意義を理解し、書風や古典の美を味わう。	a:草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、線質や全体構成の技能を身につけている。 b:草書の古典の表現形式に応じた全体の高背について構想し工夫している。 c: 主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品提出 授業観察	作品提出 ワークシート 授業観察	ワークシート 授業観察
2	行書・楷書	集王聖教序・三稿・米芾・薦季直表・楽毅論・北魏楷書の臨書を中心として、書体の変遷と王羲之の書道史的意義を理解し、書風や古典の美を味わう。	a: 行書と楷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、線質や全体構成の技能を身につけている。 b: 行書と楷書の古典の表現形式に応じた全体の高背について構想し工夫している。 c: 主体的に漢字の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品提出 授業観察	作品提出 ワークシート 授業観察	ワークシート 授業観察

	古筆に学ぶ	高野切・本阿弥切・関戸本・元永本の古今和歌集と香紙切・針切の古筆臨書を中心として、日本の文学と書の伝統文化、書の美と時代、風土、筆者などの関わりにいついて深め、日本の美を味わう。	a: 古筆の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、線質や全体構成の技能を身につけている。 b: 古筆の表現形式に応じた全体の高背について構想し工夫している c: 主体的に日本の書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品提出 授業観察	作品提出 ワークシート 授業観察	ワークシート 授業観察
3	漢字仮名交じりの書	これまで学習した古典の美を踏まえ、用具・用材などを工夫し、漢字と仮名を調和させることを主題に置き、心象を表現してく。	a:目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和などによる全体の構成の技能を身につけている。 b:目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 c:主体的に漢字仮名交じりの書の創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	作品提出 授業観察	作品提出 ワークシート 授業観察	ワークシート 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度